

## 子どもの“いじめ”や“不登校”の原因を元から断つために (連載・第1回)

### 山梨県：県内公立学校のいじめ認知件数が過去最多→約10人に1人 (全国平均の約2倍)

文部科学省が先月22日に発表した「令和元年度・児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果」によれば、山梨県内全ての公立小中高校・特別支援学校が昨年度に把握したいじめの件数は前年度より2,388件(21.8%)増えて7,744件となり、過去最多を更新した、とのこと。

また、県内の児童・生徒1千人あたりの認知件数は100.3件と、全国平均の46.5件の2倍以上で、およそ10人に1人がいじめを受けていたことがわかりました。

本県で学校での“いじめ”の認知件数が増えた要因としては、文科省が平成28年頃から「いじめ防止対策推進法」に定められた“いじめ”の定義に係る解釈の明確化を進め、ごく初期段階の具体例等も示して積極的にいじめを認知するよう全国の教育委員会に働きかけてきたことが大きいと思います。



確かに、県内の多くの学校で、以前より“いじめ”の認知を積極的に行うようになったことは望ましいことと思います。しかし、そもそも、なぜ“いじめ”が起きるのか、いじめや不登校を根本から減らしていくためにはどうしたらよいかについて、果たして学校や教育委員会の側でどの程度十分な認識を持ち、適切な対策を講じているのでしょうか？

### 子どもがいじめを悪いと学習しただけでは、いじめは無くならない

山梨県立大学の池田充裕教授(教育学)は山日新聞(10月31日)の論説欄で、「子どもは、いじめが悪いことだと知っているからこそ、親や先生の見えないところで行う」と述べています。教師が子どもに「いじめは悪いことだ」「絶対いじめをしてはいけない」等教えても、それだけでは子どものいじめを根絶することは困難だと思います。

「分かっているけど、いじめをやめられない」子どもが少なくないのです。山梨県の「いじめの防止等のための基本的な方針」を見ると、「6 いじめの防止等に関する基本的考え方」の中で、「いじめの背景にあるストレス等の要因に着目し、その改善を図り、ストレスに適切に対処できる力を育む観点が必要である。加えて、全ての児童生徒が安心でき、自己有用感や充実感を感じられる学校生活づくりも未然防止の観点から重要である。」と記しています。

しかし、そうした理想を実現するための具体的かつ効果的な対策にしっかり取り組んでいるかどうかは、かなり疑わしいと思わざるを得ません。子どもたちにいじめや不登校が起きる根本的な原因をもっと深く掘り下げ、学校教育のあり方そのものを見直していく必要があるのではないかと思います。

私どもが受ける相談もいじめ関連が非常に多く、いじめる側の背景にある子どもたちのストレスは、学校と家庭における環境が大いに影響していると感じます。その環境を作り出していることに、私たち大人は責任を感じなければなりません。人権意識の基本である「人のことを思い考える」心があれば、子どもたちに対する対応も異なるはず。当たり前の人権感覚がない社会での被害者は弱者であり子どもたちです。人権意識を高め人権感覚を持つことは、よりよい社会を作り、そして子どもたちを救います。そのために、一步一步ですが人権の輪を広げ、行政とも協働しながら進んでいきたいと思っています。(次号に続きます)

## 活動報告

**人権啓発パネル展** 11月5日(木)～11月18日(水)、甲府市中道公民館において、「命のメッセージ展」と題して人権啓発パネル展を開催しました。

**人権移動教室** 11月9日(月)、甲府市立新田小学校、甲府市立南西中学校にて、人権移動教室を開催しました。



## 今後の予定

**人権啓発パネル展** 12月3日(水)～12月16日(水)、甲府市北公民館・甲府市南公民館

**人権啓発講演会** 11月26日(木)、中北教育事務所



※人権移動教室の授業を受けた子供たちの感想文が、裏面にてご覧いただけます。

協賛：山梨県、甲府市、甲斐市



国連 NGO 横浜国際人権センター山梨ブランチャ 会長：横山隆史  
特定非営利活動法人横浜国際人権センター山梨

〒400-0031 山梨県甲府市上町 601-4 甲府市環境センター内 なでしこ工房 1 階事務室  
TEL. 055-243-8563 FAX. 055-243-8564 <http://yamanashi.yihrc.or.jp/> E-mail. [yamanashi@yihrc.or.jp](mailto:yamanashi@yihrc.or.jp)

会員企業：(株)成心設備、西関東開発(株)、(株)ウィルマート、(株)R&C、(株)フジコー、(株)渡辺工業所、甲府市管工事協同組合

山梨大学教育学部附属中学校 (男子)

人権移動教室を終えて

年 組 氏名

今回人権移動教室を終え「人権とは何か？」を考えさせられました。  
 僕は人権といったら、その人の持っている権利を思い浮かべてました。でも何を  
 持っているのかなどは、考えたこともありませんでした。「人権」とよく聞  
 きますが、その意味までは、わかりませんでした。でも今回先生がおっしゃって  
 くださった「地球全体、すべての人が2つと事を原っている。1つ目が生きて  
 いたい。2つ目が幸せになりたい。」この言葉は僕の心に刻み込まれ  
 ました。そしてもう1つ心に刻み込まれた言葉がありました。それは「幸せとは  
 毎日笑顔で楽しいこと」です。つまり地球全体の人々は毎日笑顔で  
 生きていくことを願っているんだと思いました。僕もとても感動しました。僕も  
 幸せになりたいと思います。でも自分だけが幸せになりたいとは思  
 いませんでした。

たしかに自分だけが幸せになろうと思うのは、簡単です。でも努力をしな  
 くていいので楽でもあります。でもそれで幸せが来るのかと、ちがうと思  
 ひながらみんなを助ける。つまり人を助ける人が幸せになるのだと思  
 います。そういう考え  
 方になったのは今回、この教室に行ったからです。僕は今回、この教室に行  
 き本当に色々なことが学べました。「人権とは何か？」と、その答えも、人々

ちがうと思いきや、たしかなのは、「幸せになる権利と  
 生きる権利」は人間すべての人が持っている権利だとい  
 うこと。今回はありがとうございました。



人権移動教室に参加した子どもたちの感想文をご紹介します。

山梨大学教育学部附属中学校 (男子)

人権移動教室を終えて

年 組 氏名

僕は、今回人権教室を受ける前までは、「人権」とは  
 何なのかがわかりませんでした。僕の頭の中にある「人権」  
 とは一言では表すことのできない難しい意味がある  
 複雑な言葉でした。しかし、杉藤先生に「『人権』というの  
 は自分の命と幸せを守るための権利である」と聞いて、  
 簡単な言葉で言い表せることが分かりました。また、幸せ  
 になるためには「自分が幸せなら他の人はどちらでもいい」と  
 という考えがあってはいけないと分かりました。自分さえ良ければ  
 という考えのある人は、周りのことを考えずに、自分勝手な行動を  
 指が、周りの人がよくなれず、幸せにはなれないのだと分か  
 りました。僕は杉藤先生がおっしゃっていたように、鏡の前で  
 自分の行いを振り返ってみたと思いました。そうすることで、  
 自分の誤りに気づき直すことができたと思うしま  
 した。自分だけではなく人の事まで考えることので  
 きる人間になりたいと思いました。他人を思いやること  
 で幸せになる人をたくさん作り、それによ  
 って自分自身も幸せになれるように日々  
 の生活を送っていきたくと思いました。

